

年度:令和5年度
 学校名:茅ヶ崎市立室田小学校

取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
生き物 みどり 自然 環境学習	生き物の育成や自然物の活用を通し、子供たちの自然を大切にすることを育成する。 学習を通し環境に対する意識を高める	1	野菜や・花の一人一鉢栽培の実施	各担任	児童	1年生はアサガオ・チューリップ、2年生はミニトマト・蕪を個人の植木鉢で栽培した。校内の畑では、季節に応じた野菜や草花を各学年で育てた。校地外の畑で2年生はサツマイモ、3年生が大豆の栽培と観察を行った。支援級では年間を通じ野菜の栽培と観察を行った。 1年、2年生は学区の広場で虫取りをし、教室で飼育と観察を行った。カエルを卵から飼育、観察した。ドングリや松ぼっくり、落ち葉を使った絵画制作を楽しんだ。 4年生は環境センターの方に来校してもらい、ごみについて学んだ。パッカー車を間近に見ることができ、ごみのことをより身近に考えられた。水についてもお話を伺いその大切さを学んだ。	一人一鉢の栽培を通し、植物の成長を学ぶだけではなく、「育てる」活動が命を守る学習に繋がることを実感できた。責任をもって世話を続けることで愛着さえ感じることもできた。更に収穫した野菜を給食に加え、全校で頂くなど食育にも役立った。自然の偉大な力を身近に感じ、花や野菜の栽培により興味関心を持つことができた。 近隣の公園での虫取りでは、虫を探して傷つけないように捕獲するなど命を大切に工夫などが見られた。 自然素材を集めることから学習をはじめ、その特徴を生かした制作活動ができた。改めて周囲を見渡すことで自然の美しさを知り、その大切さと守る使命を実感できた。段階を踏んだ、学年に応じた環境学習ができたと思う。
		2	自然からの贈り物を利用し、表現活動を楽しむ(地域人材の活用)	1・2年担任 支援級担任	児童		
		3	ごみの回収や分別・資源化について学習する	各担任 4年担任	児童		
		4	上下水道について学習する	4年担任	児童		
省エネルギーの推進	日常の学校生活の中で省エネルギー活動を実践する。	1	植物の栽培に雨水を利用する	各担任	児童	低学年はペットボトルを利用した如雨露を個人持ちにし、雨水タンクの水を活用した。植物への水やりや、掃除の際の雑巾濯ぎでは、バケツを利用し水の出っぱなしを無くした。資源には限りがあること、有効な利用の仕方や無駄使いを無くす学習を学年に応じて行った。 電気をこまめに消したり、水道の蛇口をチェックしたり、エアコンの設定温度を配慮したりとまずは大人がモデルを示し、子どもたちに意識付けをした。晴天の日は窓を開け、自然光の気持ちよさを実感させた。 会議等の提案をペーパーレス化したことで、紙の購入量を削減することができた。「リユース」のスタンプを活用しながら紙の再利用を心掛けた。	リサイクルしたものを日常的に使うことで、物を大切にする気持ちや、使用後の有効利用の仕方を考えることができた。 改めて水の大切さや水を得るための苦労や大変さを知ることができた。学習を進めることで具体的な節水の仕方やもったいない水の使い方などを意識できるようになった。更に限りある資源の有効な使い方を学ぶ学習を継続していき、全体の意識向上に繋げたい。 今後省エネ活動について、何が学校全体で取り組めるのか教職員間で協議していきたい。
		2	使っていない教室やトイレの電気はこまめに消し、機器の電源はぬく	各担任	児童 教職員		
		3	水道使用後の蛇口はきちんとしめる	各担任	児童		
		4	会議等の提案は電子化するなど、印刷やコピーの無駄をなくす	エコ担当	教職員		
		5	使用しないコピー機、印刷機の電源を抜く	エコ担当	教職員		
資源・4R 廃棄物の 取り組み	ごみの分別・リサイクル活動を推進し、ごみの量を減らします。	1	教室から出るごみを意識し分別する力を養う。プラごみの回収	各担任 美化委員会担当	児童 教職員	教室内で出るごみを分別できるよう、ゴミ箱の設置方法等各クラスで工夫した。低学年から分別の仕方を学び、特に教室から出る紙ごみとプラスチックごみを区別することを意識させる学習に取り組んだ。クラスのごみの分別を徹底し、委員会の児童が週1回教室を回って回収に当たった。低学年では日常のごみの削減を呼びかけ、「もったいない」を合言葉に物を大切にすることを意識を高めた。図工の学習で段ボールや空き箱、ペットボトルなどを利用し制作活動を行った。ペットボトルキャップの回収を呼びかけ、家庭にあるキャップを集め公民館に届ける活動を継続中。 全校でエコかるたの作成に取り組んだ。エコにつながる言葉を募集し「読み札」を作り、絵札は各クラスに分担し、全校で一つのカルタを作成。クラスに1組ずつ配付した。	スクールエコアクションの3年計画を全体で共有し、2年目の取り組みとなった。今年度は学校全体へ広げていくスクールエコアクションとし、学校全体で取り組む活動を考えた。6年児童と代表委員会が中心となり、「エコかるた」の制作を計画した。カルタ制作を通し、何がエコなのか、どんなことを意識したらよいのか等、エコを身近で感じる事ができた。読み札の文も募集した中から選び、子どもの素直な言葉を採用した。児童が中心となる活動へと広げることができた。学校全体への呼びかけや誘いも児童発信できてよかった。 また、身近にあるものをリサイクルして楽しむことができた。不要となったキャップが実は役に立つことを広め、学校で回収する活動は継続している。
		2	持ち物には記名し、最後まで大切に使う習慣をつける	各担任	児童		
		3	ポスターや新聞等を通し、給食を残さないよう呼びかけを行う	給食委員会担当	児童 教職員		
		4	ペットボトルキャップの回収を行う	支援級担任	児童 教職員		
		5	“エコ”についての啓発活動として6年児童と代表委員会を中心となり、全校で『エコかるた』の作成に取り組んだ	エコ担当 各担任	児童		

●写真等の記録:活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。



6年生を中心としたスクールエコアクション委員会を発足し、全校でエコカルタの制作に取り組んだ。読み札の文の募集、絵札の絵の募集なども全校から行い、室田小ならではのエコカルタが完成した。添付写真にある通り、低学年でも取り組みやすく、楽しみながらエコかるたで遊ぶことができている。来年度はエコかるたで楽しみながらも、エコ活動への関心を高めていき、学校内に留まらず、地域とも繋げていきたい。

●学校長(推進責任者)によるコメント

【学校長名】

作道 亜貴子

【今後の方向性について】

今後も引き続き、環境学習、省エネ、資源再利用等の取り組みを継続し、児童の意識向上を図りたい。児童の意識の変化が、環境問題の改善に向けた学校や家庭、地域での活動につながっていく。やらされる環境学習ではなく、児童自らが新たな課題を設定し、主体的に取り組んでいけるよう考えていく必要がある。

学習指導要領の総則には「環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養う」とある。なぜ、今エコ活動が必要なのか、本質的な意義を少しずつ理解・習得する教育を平行しながら、地域と連携しながら、児童主体のエコ活動への取組をすすめたい。